

日本の原風景である棚田の景観を継承していく

キーワード

地方創生、官民連携、森林・里山活用、水辺の保全・再生、環境配慮型農業、食、ブランド化、観光、健康・美容

フィールド

中部地方
(長野県)

里

実施体制

千曲市、千曲市棚田保全推進会議、立正大学、屋代高等学校附属中学校、更級小学校、八幡小学校等地域の小学生



アクションの目的

都市と農村との交流を図りつつ棚田の耕作を継続することにより、棚田の景観を保全し、後世へと継承する。

アクションの背景

古くから文人にも愛され、田毎の月としても知られる羨捨の棚田であるが、地元耕作者の高齢化、過疎化により耕作放棄地が増えていた。この日本有数の規模を誇る棚田の景観を後世に残すため、棚田貸します制度（平成8年創設）をはじめ、千曲市棚田保全推進会議の各団体が棚田の保全活動を行っている。

アクションの内容

善光寺平を一望にできる開けた眺望、昔ながらの小さく様々な形の田んぼが広がる羨捨の棚田。国の名勝指定、日本棚田百選、重要文化的景観にも選定されている、日本の原風景ともいえる棚田で、山のミネラルを含んだ湧き水を使用し稲作をします。

棚田貸します制度では、田植え、除草、稲刈り、脱穀までの作業をオーナーが行う体験コース、農作業は自由参加の保全コースの2コースを用意しています。農作業は、手作業を基本として稲作の原点を体験できます。地元農家の指導があるので初めてでも安心して参加できます。田植え、稲刈り、脱穀時のイベントでは、地元農家との交流、郷土料理、伝統行事などを楽しめます。

各団体も主催する体験学習では、地元保育園、小中学校、さらには都内学校からも受け入れ、大学生の調査研究の場となるなど、食の安全、食農教育、地域活性化などに関し、広く学びの場ともなっています。

アクションのポイント

◎大型機械による稲作が普及する中であって、あえて手作業による稲作を体験してもらうことにより、自然に触れながらの農作業の楽しみ、喜び、時に自然の厳しさを味わってもらいつつ、棚田の保全を行う。

◎都市と農村との交流、及び、体験学習等による地元住民同士世代間の交流（横のつながり）、そして、棚田の次世代への継承（未来へのつながり）を目指しています。

アクションの効果と今後の展開

大型機械の使用が困難な棚田の耕作継続が可能となり、棚田保全の一助となっています。さらに、今では希少な手作業、天日干しでの稲作は、昔ながらの棚田の景観をより一層引き立て、観光客やカメラマン増加につながっています。オーナー会員の約半数が都市部からの参加者であることから、都市と農村との交流がなされ、地元へ活気を与え、地域活性化につながっています。体験学習においては、地域活性化について考えたり、郷土愛を育てたりするきっかけとなっています。

長野県千曲市

千曲市役所経済部農林課農村振興係

〒

387 - 8511 長野県千曲市杭瀬下二丁目1番地

○ TEL /026-273-1111（代表） ○ E-Mail /norin@city.chikuma.lg.jp